

文化財保存施策の国際的研究 (②セ01-08-3/5)

本プロジェクトは、文化財の保存のための諸施策またこれに関する国際協力を円滑に進めるための基礎となる国際情報の収集・研究、基盤づくりを大きな目的とし、これを政策面における文化財保護制度の比較研究（諸外国の文化財保護制度の研究）、情報交換・ネットワークづくりのための国際ワークショップの開催の二つの側面から展開している。

諸外国の文化財保護制度の研究

目 的

諸外国また国際社会における文化遺産の概念やその保護の理念、政策、各種施策に関する最新の動向を常に把握し、分析し、情報を蓄積しておくことは、国内の文化財保護施策のさらなる充実に資するためにも、また日本が行う文化遺産分野での国際協力事業をさらにレベルアップして実りある国際貢献を実現していくためにも重要である。本研究は、そのための諸外国また国際機関の特に政策・施策レベルの動向に関する比較研究を行うものである。

概 要

今年度は、世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。主なものは以下である。シルクロードの世界遺産一括登録に関するユネスコ作業部会（西安）、ユネスコ世界遺産委員会（ケバック）、タンロン皇城遺跡の保存に関するワークショップ（ハノイ）、東アジア木造建造物の彩色・塗装の保存に関する国際セミナー（北京）。

国際文化財保存修復研究会

日本国内への国際情報の発信と、国際協力に関する国内専門家の情報交換・連携強化を目的として、本年度は「遺跡保存と水」をテーマに開催して国際文化財保存修復研究会を開催した。（日時：2008（平成20）年9月19日、場所：東京文化財研究所セミナー室）。同研究会の報告書として『第22回国際文化財保存修復研究会報告書』を作成した（70頁を参照）。

アジア文化遺産国際会議

目 的

文化遺産の保存またその国際協力において、専門家や専門機関の相互の連携は、情報の共有、保存の理念の深化、施策や技術の向上、緊急の問題の解決のために重要である。アジア文化遺産国際会議は、アジアの文化遺産に関する各種の課題について協議するため、各国の専門家また専門機関を招聘して行う国際専門家会議であり、アジア地域における文化遺産保存活動の普及啓発、専門家・専門機関ネットワークの構築に貢献するとともに、アジアから世界に向けての情報発信の場となることを目指している。

概 要

文化遺産国際協力センターではこれまでアジアの専門家を日本に招聘して国際会議を開催することにより標記の目的を達成し、成果をあげてきた。この経験をもとに2006（平成18）～2010（平成22）年度の5年計画では、会議の開催場所を海外に移してこれを地域ごとに開催することにより、これまでに蓄積されて

きた経験を生かしつつより現実に即した情報の収集と問題点の解決を目指している。

この計画の初年度（2006年度）の会議は準備会合として東京で開催され、2年目（2007年度）は、中央アジアのウズベキスタン共和国タシケント市で開催した。3年目の本年度は、2009（平成21）年1月14～16日の間、タイ王国のバンコク及びアユタヤにて東南アジアを中心とする会議を開催した。14、15日の2日間はバンコクにて円卓会議とし、16日はアユタヤにてエクスカージョンとした。

東南アジア諸国は、高温で多湿であるなど、気候的共通性があるが、その中で文化財に対して影響を与える自然災害にはどのようなものがあるか。そして、そのような自然災害により被災した遺跡を修復していく際に、どのような方法がとられているかなどに関するカントリーレポートが各国からなされ、それに関する総合討議が行われた。また、アユタヤ遺跡において、実際に自然災害に対する対策が取られている遺跡の現場を参加者で視察し、適切な修復材料などに関する情報が共有された。

日 時：2009（平成21）年1月14～15日（バンコク、サイアムシティホテル）、16日（アユタヤ）

テーマ：被災後の遺跡の修復と保存

主 催：東京文化財研究所、タイ文化省芸術総局

後 援：東南アジア文部大臣機構考古芸術事業、在タイ日本国大使館

発表者と発表テーマ：

趣旨説明・基調講演：朽津信明、清水真一（以上、文化遺産国際協力センター）

カントリーレポート：グトモ・シダールタ（インドネシア）、ヤハヤ・アーマド（マレーシア）

ワイルウィン（ミャンマー）、マリア・クリスティーナ・ヴァレラ（フィリピン）

スドゥチャイ・パンスワン（タイ）、フォン・ヴォダン（ベトナム）、二神葉子（日本）

会議資料出版：2冊

『Expert Meeting on Cultural Heritage in Asia and the Pacific』 09.01

『Reference Materials—Natural disasters, Immovable Cultural Heritage and Emergency Actions in Southeast Asia』 09.1

研究組織

○清水真一、岡田健、山内和也、朽津信明、二神葉子、友田正彦、江草宣友、廣野幸、高多加奈子、今井健一朗、宇野朋子、有村誠、影山悦子、秋枝ユミイザベル、邊牟木尚美、島津美子、鈴木環（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、ウーゴ・ミズコ（以上、客員研究員）



アジア文化遺産国際会議発表風景